

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所  
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 205  
Tel. (045) 671-1109  
振替 00200 - 1 - 47369  
E-Mail : naka-ch@hb.tp1.jp HP : http://church.jp/naka/  
発行者 なか伝道所／編集委員会 (題字 松橋 順)

## 宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

集会 主日礼拝 日曜日(第1・第2・第5)  
午前10時30分より

## これからのなか伝を考える②

# 「なま」の近況—コロナ状況下で考えたこと



代務者の中村牧師による礼拝(3月28日)

コロナ感染拡大の中で出された二回の緊急事態宣言。礼拝の休止が余儀なくされ、なか伝メンバーが顔を合わせる機会も激減しました。だから尚更、「これからのなか伝」をみんなで考えていくためには、お互いの意思疎通が必要です。思いを共有できることを願い、前号に続きメンバーからの発信を、シリーズで掲載させていただきます。

### 最近考えたこと

渡辺恵子

なか伝道所での礼拝は、テーブルを囲み出席者の顔ぶれが皆で確認できるような配置で守られています。使信の後に短時間ではありますが、その時感じたこと、学んだこと、疑問に思ったことなどを自由に話し合う時間が組み込まれており、その間にいろいろな人の意見、感想を聞くことができるため刺激を受けています。イエスに連なる教会、真理を

求める仲間、その中だからこそ自分の初歩的な考えや思いなども伝えることができます。大きな声、強い声を出す場合もありますが、その場に流されず自由に話し合える場と感じながら参加しています。

乗り換え二回、片道一時間半かけての礼拝出席はコロナ騒動の中では三〜四回が関の山でした。在宅の時間が多く、その時改めてキリスト教の成立、聖書、信仰などについて考えさせられました。

この期間に、イエス誕生後約四百年の時間がたった後に新約聖書が編纂されたということを学び、四百年もの長い時間におけるその国の社会

の情勢、イエスに出会った人々がどのような体験や思いを込めてイエスのことを人々に伝えたのか、そしてどのような経路を経て聖書が編纂されたのか等に、今まであまり関心を持ってこなかったことに気づかされました。

また、「イエス自身がどのような罪の意識を持ち、それにどのような悩み、どのように解決していたのか」『農伝紀要三十号』(佐藤研著、六二ページ)という視点に触れ、過去に私自身が、「イエスがヨハネより洗礼を受けた時、イエスの中で罪はどのように認識されていたのか」と疑問を持ったにもかかわらず、このようなことは考えるべきではない、と封じ込めていたことを思い起こしました。

ほかに、これまで「福音」という言葉を漠然と理解し使用してきましたが、この言葉が具体的に何を指しているのか、いつごろから使われだしたのかに気がなり調べる機会がありました。「イエスとその時代」(荒井献著、七一ページ)の中では「福音」という言葉はイエスの出来事をマルコが総括した概念であり、イエスがマルコによる福音書の中で述べ



使信ししん

# 「主がお入り用なのです」

マルコによる福音書十一章一〜十一節

なかむら きよし  
中村 清

一行がエルサレムに近づいて、オ

リーブ山のふもとにあるベトファゲとベタニアにさしかかったとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、言われた。「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、連れて来なさい。もし、だれかが、『なぜ、そんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐここにお返しになります』と言いなさい。」

(マルコ十一章一〜十三節)

## ■平和の王として

本日、「棕櫚の主日」に与えられた箇所は、主イエスが十字架にかかるためにエルサレムに入られた箇所です。主イエスの三度目の受難予告がマルコ十章三二〜三四節に語られています。この時、主イエスは死を覚悟して、特別なかたちでエルサレム入りされました。それはろばの子に乗って。旧約聖書に預言されているまことの王（平和の王）として、ろばに乗って入場されたのです。しかも、過越

## えーとねえ

通いがかりの五歳ぐらいの女の子

「ごども あっ、ママ、見てみて！ ススメが鉄棒してる！」

梅の枝に刺された蜜柑（みかん）を、メジロが逆さまになってつついていきます。ススメより器用なメジロでした。

祭の時に合わせてエルサレム入場を計画されたのでした。

ゼカリヤ書九章九節に

「娘シオンよ、大いに踊れ。

娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。

見よ、あなたの王が来られる。

彼は神に従い、勝利を与えられた者

高ぶることなく、ろばに乗ってくる

雌ろばの子であるろばに乗って。」

とあります。

主イエスの誕生において、東方から来た占星術の学者たちが「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」（マタイ二章二節）と言ったように、主イエスは王としておいでになりました。世界に平和を築く王として。ではそれをどのように築かれるのでしょうか。

武力によって世界制覇するのではなく、自らが罪の身代わりとなり命をささげ、愛によって平和を築く柔和な王としてこの世に來られたのです。

## ■主がお入り用なのです

王なる神の子は、レントルのろばに乗って入場されます。このことは平和の王は、軍事的なものは何も持たず、この世にあって何ひとつ所有

されなかったことを意味しています。主イエスの生涯はすべて借り物で過ごされました。生まれる時も、聖霊によりマリアの胎に宿り、誕生も借り物の家畜小屋。説教する時もペト口の舟を借りて説教し、二階の間を借りて最後の晩餐をされました。ヨセフの墓に身を横たえ、そこから復活されました。全て借り物です。

ろばの子を借りるにあたり、主イエスは弟子たちに「主がお入り用なのです」と言いなさいと命じられました。

突然、農家に行っても、だれも大事な家畜を見知らぬ人に貸したりしません。しかし、「主がお入り用なのです」と、主の言葉によって行い、そう語ると手にすることができたのです。

一方、農家の人にとっては、ろばは大事な財産です。それを「主がお入り用なのです」というひと言で、差し出せるとは大したものなのです。私たちは、自分が大切にしている物を「主がお入り用なのです」と言われて差し出すことができるでしょうか。

昔の宣教師スピリットには（現在も同様だと思いますが）、このことがあったと言われます。「主よ、あ

あなたが必要とされるのですから、地の果てまでも従っていきます。主よ、あなたの働きのために用いてください」という祈りが。私のお仕えしている教会の二〇二〇年度の教会標語は「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録二十章三五節)です。この一年、大変な年でしたが、「与えよ」と命じられ、できるだけ与えることに努めたつもりですが、与えた物よりも与えられることが多かった一年でした。

### ■ 私たちに与えられた働き

最後に、三つの言葉に注目したい

と思います。

まず第一に、二節前半の「子ろばのつないであるのが見つかる」。この「つなぐ」という言葉は、マルコ五章三節には、悪霊にとりつかれたゲラサの人を「もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかつた」と同じ言葉です。この言葉は、拘束を意味します。この世の悪や病、この世の習わしにすぎ縛られて生きているのが私たちです。

第二の言葉は、二節後半の「ほどこ」という言葉は解放する、自由きざまを語りあうことはできるはずだし、なによりも人生や生活に寄り添った、ひととひととの繋がりを共有していけたらと思う。わたし自身は、ひととひととの関係性の中にこそ神が宿ると信じているからだ。ことが上滑ることを嫌い、行動していきたい。テーブルの上を用意されたお茶とお菓子にかぶりつくだけではなく、時には自身でお茶を淹(い)れ、誰かを迎える。信頼で繋がり、自主的で自発的かつ開かれた教会に憧れている。

(工藤玲子)

にするという意味です。口語訳聖書では、「解く」と訳されています。

この言葉から思い出されるのは、フィリポ・カイサリアで、主イエスが弟子たちに、「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」との問いに對して、ペトロが代表して「あなたはメシア、生ける神の子です」と告白した時、主イエスは「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつなされる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」(マタイ十六章十九節)と言った言葉を思い起こしました。罪に繋がれた者を解き放つために、主イエスは十字架へと向かわれました。

第三に注目すべき言葉は、三節の「すぐにお返しになります」です。「お返し」という言葉は「派遣する」という意味の言葉です。

つまり、子ろばの出来事を通して、弟子たちの働き(教会)が語られているのです。教会の働きは、まさに子ろばのように小さなものです。小さな者を罪から解き放ち、愛の働きのために喜んで生きることができるよう使命と、知恵と力を与え、派遣されるのです。こんな小さな者をも、主の働きのために用いてくださるの

です。主はあなたを神の大きな愛の業のために用いになられます。「主がお入り用なのです」との言葉は、今の私たちに語られている言葉です。

## まど

「寿」の中にある教会、その在り方を考える。街を歩けば日向の中に多く、のひとが座つたり、佇んだりしている。そしてそのほとんどがダンセイ。サイレンの音もよく聞くと、視界に三台の救急車を見たこともある。「寿」は特異な街だと言える。住人の多くは、さまざまな要因により漂着したひとたちであり、社会の片隅に生きるひとたちだ。こうした場所に在る教会だからその意義を、見出せないだろうか。既存の教会形成にとらわれることなく、イエスの生

### ■ お詫びと訂正 ■

前号「なかだより」一九五号一ページの見出しが校正ミスのため、一九四号と同じになってしまいました。一九五号の見出し「なか伝道所の現状について」を「これからのなか伝を考える①」に訂正いたします。